

事業所名

多機能型通所支援事業所なないろ(児童発達支援)

支援プログラム

作成日

2025 年

1 月

6 日

法人（事業所）理念		こどもが主役		
支援方針		<p>当事業所では、個別支援を支援の初期段階における基本かつ最重要な取り組みと考えています。</p> <p>個別支援を通じて、利用者一人ひとりの特性や課題を丁寧に把握し、得意な分野をさらに伸ばすとともに、苦手な分野の集中的な支援を行います。</p> <p>また、利用者が安心して支援を受けられる環境の中で、対人関係や社会性の発達が促進されることを目指しています。</p>		
営業時間		9 時 0 分から 15 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	<p>感覚統合：感覚処理の困難を理解し、適切な感覚入力を通じて日常生活の質を向上させます。</p> <p>作業療法士の支援：体の使い方を学び、日常生活動作の改善を目的とした支援を提供します。</p>		
	運動・感覚	<p>感覚統合：バランスや体の動きに対する感覚入力を通じて、運動機能や身体の調整機能を高めます。遊びを通じた感覚刺激の提供を行います。</p> <p>作業療法士の支援：微細運動(手先の器用さ)の向上や、粗大運動(全身運動)スキルの向上を目指した支援を提供します。</p>		
	認知・行動	<p>コグトレ：認知機能を育むためのトレーニングを行います。視覚的なパズルやワーキングメモリを刺激する課題を取り入れます。</p> <p>公認心理士の支援：行動管理方法や感情のコントロールをサポートします。個々の課題に応じて、自己理解を深めるアプローチを行います。</p>		
	言語 コミュニケーション	<p>言語聴覚士の支援：発語練習や語彙の拡大、文章理解の強化など、言葉の発達を促進します。ジェスチャーの活用など、非言語的コミュニケーションのサポートも行います。</p> <p>SST：挨拶や簡単なやり取りなど、日常生活でのコミュニケーションスキルを練習します。</p>		
	人間関係 社会性	<p>愛着形成：子どもが安心感を持てる信頼関係を構築することで、他者と関わる基盤を作ります。遊びや関わりを通じて、自己肯定感を高めます。</p> <p>SST：相手の意図や気持ちを読み取る練習、自分の気持ちを適切に伝える方法を支援します。</p> <p>公認心理士の支援：対人関係の悩みに応じたカウンセリングや、社会性を育てるための活動を提供します。</p>		
家族支援		<p>定期的な面談：支援の進捗や家庭での対応について共有し、相談に応じます。</p> <p>特性や発達の情報提供：子どもの特性や成長に関する知識を提供し、家庭内での適切な対応をサポートします。</p>	移行支援	<p>教育機関や支援機関との連携：就園、就学時に適切な環境へ移行できるよう、関係機関と情報共有を行います。</p> <p>環境適応の準備：子どもが次の環境にスムーズに馴染むための支援を行います。</p> <p>保護者の不安への対応：移行に伴う保護者の悩みや疑問に丁寧に応えます。</p>
地域支援・地域連携		<p>地域の支援機関との連携：医療機関等の関係機関と協力し、支援体制を強化します。</p> <p>地域資源の紹介：地域で利用可能なサービスを保護者へ紹介し、活用を促します。</p>	職員の質の向上	<p>外部研修や視覚取得の促進：職員のスキルアップを目指し、外部研修への参加や資格取得を支援します。</p> <p>職員間の情報共有：定期的な会議を通じて支援内容の充実を図ります。</p>
主な行事等		<p>親子ふれあい参観：子どもと保護者が一緒に活動し、成長を共有できる機会を提供します。親子の絆を深め、家庭でのふれあいを促進します。</p> <p>インクルーシブ保育：様々な背景や特性を持つ子どもたちが一緒に活動し、お互いを尊重しながら成長できる場を設けます。</p> <p>避難訓練：災害時の安全確保を目的とした訓練を安全計画に基づき定期的に行い、子どもたちの防災意識を高めます。</p>		

(別添資料1)

事業所名

多機能型通所支援事業所なないろ(放課後等デイサービス)

支援プログラム

作成日

2025年

1月

6日

法人(事業所)理念		こどもが主役			
支援方針		当事業所では、個別支援を支援の初期段階における基本かつ最重要な取り組みと考えています。 個別支援を通じて、利用者一人ひとりの特性や課題を丁寧に把握し、得意な分野をさらに伸ばすとともに、苦手な分野の集中的な支援を行います。 また、利用者が安心して支援を受けられる環境の中で、対人関係や社会性の発達が促進されることを目指しています。			
営業時間		15時0分から	17時0分まで	送迎実施の有無	あり
		支援内容			
本人支援	健康・生活	感覚統合：感覚処理の困難を理解し、適切な感覚入力を通じて日常生活の質を向上させます。 作業療法士の支援：体の使い方を学び、日常生活動作の改善を目的とした支援を提供します。			
	運動・感覚	感覚統合：バランスや体の動きに対する感覚入力を通じて、運動機能や身体の調整機能を高めます。遊びを通じた感覚刺激の提供を行います。 作業療法士の支援：微細運動(手先の器用さ)の向上や、粗大運動(全身運動)スキルの向上を目指した支援を提供します。			
	認知・行動	コグトレ：認知機能を育むためのトレーニングを行います。視覚的なパズルやワーキングメモリを刺激する課題を取り入れます。 公認心理士の支援：行動管理や感情のコントロールをサポートします。個々の課題に応じて、自己理解を深める活動や認知行動療法的アプローチを行います。			
	言語 コミュニケーション	言語聴覚士の支援：発語練習や語彙の拡大、文章理解の強化など、言葉の発達を促進します。ジェスチャーの活用など、非言語的コミュニケーションのサポートも行います。 SST：挨拶や簡単なやり取りなど、日常生活でのコミュニケーションスキルを練習します。			
	人間関係 社会性	愛着形成：子どもが安心感を持てる信頼関係を構築することで、他者と関わる基盤を作ります。遊びや関わりを通じて、自己肯定感を高めます。 SST：相手の意図や気持ちを読み取る練習や、自分の気持ちを適切に伝える方法を支援します。 公認心理士の支援：対人関係の悩みに応じたカウンセリングや、社会性を育てるための活動を提供します。			
家族支援		定期的な面談：支援の進捗や家庭での対応について共有し、相談に応じます。 特性や発達の情報提供：子どもの特性や成長に関する知識を提供し、家庭内での適切な対応をサポートします。	移行支援	教育機関や関係機関との連携：進学等、進路選択時に適切な環境へ移行できるよう、関係機関と情報共有を行います。 環境適応の準備：子どもが次の環境にスムーズに馴染むための支援を行います。 保護者の不安への対応：移行に伴う保護者の悩みや疑問に丁寧に応えます。	
地域支援・地域連携		地域の支援機関との連携：医療機関等の関係機関と協力し、支援体制を強化します。 地域資源の紹介：地域で利用可能なサービスを保護者へ紹介し、活用を促します。	職員の質の向上	外部研修や視覚取得の促進：職員のスキルアップを目指し、外部研修への参加や資格取得を支援します。 職員間の情報共有：定期的な会議を通じて支援内容の充実を図ります。	
主な行事等		親子ふれあい参観：子どもと保護者が一緒に活動し、成長を共有できる機会を提供します。親子の絆を深め、家庭でのふれあいを促進します。 インクルーシブ保育：様々な背景や特性を持つ子どもたちが一緒に活動し、お互いを尊重しながら成長できる場を設けます。 避難訓練：災害時の安全確保を目的とした訓練を安全計画に基づき定期的に行い、子どもたちの防災意識を高めます。			

事業所名

多機能型通所支援事業所なないろ(保育所等訪問支援)

支援プログラム (参考様式)

作成日

2025 年

1 月

6 日

法人（事業所）理念		こどもが主役																
支援方針		<p>当事業所では、個別支援を支援の初期段階における基本かつ最重要な取り組みと考えています。</p> <p>個別支援を通じて、利用者一人ひとりの特性や課題を丁寧に把握し、得意な分野をさらに伸ばすとともに、苦手な分野の集中的な支援を行います。</p> <p>また、利用者が安心して支援を受けられる環境の中で、対人関係や社会性の発達が促進されることを目指しています。</p>																
営業時間		9	時	0	分から	17	時	0	分まで	送迎実施の有無		なし						
		支 援 内 容																
本人支援	健康・生活	<p>生活習慣の支援：保育所等のスタッフと連携し、日常生活における習慣形成をサポートします。基本的リズムについて助言し、家庭と保育所等での一致した支援を行います。</p> <p>ストレス管理：子どもが過度のストレスを感じないよう、環境や活動内容についての調整の提案を行います。保育所等のスタッフと共に、落ち着ける場所やタイミングを検討し、子どもが過度なストレスなく過ごせるように支援します。</p>																
	運動・感覚	<p>感覚統合：子どもの感覚過敏・鈍麻に関する観察を行い、保育所等で実施する活動において感覚統合的なアプローチを提案します。</p> <p>活動環境の調整：子供に適した運動環境や遊び道具についてのアドバイスを行い、保育所等での運動や遊びの効果を高めます。動きやすい環境づくりや特定の運動がうまくいくような支援方法を提供します。</p>																
	認知・行動	<p>行動の観察とフィードバック：子どもの行動パターンや反応を観察し、保育所等のスタッフに適切な行動支援の方法を提案します。問題行動を減らすためのアプローチを共有し、環境の調節を促進します。</p> <p>コグトレ：認知機能向上のために、保育所等で実施可能な認知トレーニングを提案します。簡単な課題や活動を紹介し、子どもが楽しみながら認知力を高められるような支援を行います。</p>																
	言語 コミュニケーション	<p>発語の促進：絵カードやジェスチャーを用いて、子どもが言いたいことを引き出し、発語を促します。保育所等のスタッフと連携し、指示や質問に対する反応を引き出す方法を共有します。</p> <p>会話の練習：日常的な会話を通じて、簡単なフレーズから言葉を使えるよう支援します。また、子どもがコミュニケーションを取る際のサポートを行い、言葉を使う練習の場を作ります。</p> <p>非言語コミュニケーションの支援：子どもが他者とスムーズに関わるために、ジェスチャーや表情を用い、感情や意図を伝えやすくする方法を提案します。</p>																
	人間関係 社会性	<p>SST：子どもが社会的なスキルを身につけるために、保育所等で実施可能なSSTの方法を提案します。順番を守る、挨拶をするなどの基本的な社会性の向上を目指し、必要に応じて実際の活動で直接支援を行います。</p> <p>対人関係：子ども同士のトラブルを防ぎ、その場で適切に対応する方法を具体的に示すことで、子どもが自分で解決する能力を育てます。</p>																
家族支援		<p>定期的な面談：支援の進捗や家庭での対応について共有し、相談に応じます。</p> <p>特性や発達の情報提供：子どもの特性や成長に関する知識を提供し、家庭内での適切な対応をサポートします。</p>				移行支援		<p>教育機関や支援機関との連携：就園、就学時に適切な環境へ移行できるよう、関係機関と情報共有を行います。</p> <p>環境適応の準備：子どもが次の環境にスムーズに馴染むための支援を行います。</p> <p>保護者の不安への対応：移行に伴う保護者の悩みや疑問に丁寧に応えます。</p>										
地域支援・地域連携		<p>地域の支援機関との連携：医療機関等の関係機関と協力し、支援体制を強化します。</p> <p>地域資源の紹介：地域で利用可能なサービスを保護者へ紹介し、活用を促します。</p>				職員の質の向上		<p>外部研修や視覚取得の促進：職員のスキルアップを目指し、外部研修への参加や資格取得を支援します。</p> <p>職員間の情報共有：定期的な会議を通じて支援内容の充実を図ります。</p>										
主な行事等																		